

スーパーマーケット販売統計調査資料

2018年3月実績 速報版(パネル270)

2月実績 確報版(パネル270)

2017年度実績 速報版

(2018年4月20日公表)

調査資料概要

【パネル270社集計】

食品を中心に扱うスーパーマーケットを対象に同一企業を集計

※2016年4月実績よりパネル対象企業変更(275社→270社)

【集計項目】

商品分類別・エリア別・保有店舗別集計

集計企業数、総店舗数、総売場面積、店舗平均月商、売場1㎡あたり売上高

【速報版・確報版】

速報版:毎月21日前後に前月販売実績を速報値として公表

確報版:速報値に精度の高い集計を行い確報値として公表

【全店・既存店】

全店:前年同月全営業店舗と当月全営業店舗の比較

既存店:前年同月、当月共に営業の店舗による比較

【商品分類】

総売上高	食品合計	生鮮3部門	青果	野菜類、果実類、花
			水産	魚介類、塩干物
			畜産	食肉類、肉加工品
		惣菜	惣菜、折詰料理、揚物、弁当、おにぎり、寿司、インスタアベーカーリー、ファーストフード	
	日配	豆腐、こんにゃく、納豆、練製品、佃煮、漬物、パン、卵、乳製品、生菓子、冷凍食品、アイスクリーム		
	一般食品	調味料、瓶詰詰、乾物、米、小麦粉、乾麺、嗜好品、菓子、酒類		
	非食品	日用雑貨品、医薬・化粧品、家具インテリア、家電製品、婦人衣料、紳士衣料、文具、玩具		
その他	テナント売上高、タバコ・ギフト販売、その他取次業(DPE、クリーニング、宅配便、レンタル、チケット販売等)			

【地方分類】

北海道・東北地方	北海道、青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島
関東地方	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中部地方	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
近畿地方	三重、滋賀、奈良、和歌山、京都、大阪、兵庫
中国・四国地方	岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知
九州・沖縄地方	福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄

※2014年4月実績よりエリア区分を8地方区分による6地方に変更

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

オール日本スーパーマーケット協会

一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査に関するお問い合わせ

tokei@super.or.jp

2018年4月20日

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会
 一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
 2018年3月実績 速報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	87,926,291	100.0%	101.1%	99.7%
食品合計	79,301,796	90.2%	101.6%	100.0%
生鮮3部門合計	30,298,886	34.5%	102.2%	100.5%
青果	12,781,707	14.5%	104.7%	103.2%
水産	7,681,406	8.7%	98.0%	96.5%
畜産	9,835,772	11.2%	102.3%	100.5%
惣菜	8,996,704	10.2%	103.0%	101.0%
日配	16,794,290	19.1%	100.7%	99.6%
一般食品	23,211,916	26.4%	100.9%	99.4%
非食品	6,221,138	7.1%	96.9%	96.5%
その他	2,403,406	2.7%	94.9%	97.2%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	12,392,832	43	101.6%	99.9%
関東地方	32,739,618	73	101.4%	100.2%
中部地方	10,837,346	53	101.4%	100.1%
近畿地方	18,322,688	44	99.6%	98.7%
中国・四国地方	8,809,523	34	102.6%	99.1%
九州・沖縄地方	4,824,284	23	100.4%	99.8%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	661,817	44	98.2%	98.2%
4~10店舗	3,965,885	74	101.2%	99.4%
11~25店舗	9,718,335	62	99.7%	98.3%
26~50店舗	16,085,813	46	100.5%	99.3%
51店舗以上	57,494,441	44	101.4%	100.0%
集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	85,514,380	
総店舗数 (店舗)	7,902	店舗平均月商 (万円)	11,127	
総売場面積 (㎡)	13,137,915	売場1㎡あたり売上高 (万円)	6.7	

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2018年4月20日

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会
 一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
 2018年2月実績 確報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	82,761,454	100.0%	102.1%	100.6%
食品合計	75,021,286	90.6%	102.7%	101.1%
生鮮3部門合計	28,760,478	34.8%	103.6%	101.9%
青果	12,118,811	14.6%	105.8%	104.4%
水産	7,063,812	8.5%	99.8%	98.1%
畜産	9,577,855	11.6%	103.8%	101.9%
惣菜	8,447,444	10.2%	103.2%	101.2%
日配	15,999,327	19.3%	102.3%	100.9%
一般食品	21,814,038	26.4%	101.6%	100.2%
非食品	5,423,843	6.6%	97.8%	97.2%
その他	2,316,371	2.8%	96.9%	96.6%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	11,294,740	43	102.2%	100.5%
関東地方	30,392,152	73	102.5%	101.0%
中部地方	10,276,679	53	103.1%	101.3%
近畿地方	18,230,571	44	101.3%	100.4%
中国・四国地方	8,185,479	34	101.6%	98.9%
九州・沖縄地方	4,381,833	23	101.1%	100.7%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	659,778	45	99.7%	99.7%
4~10店舗	3,622,631	73	102.4%	99.8%
11~25店舗	9,253,301	62	101.5%	99.4%
26~50店舗	14,925,934	46	101.7%	100.1%
51店舗以上	54,299,810	44	102.4%	101.0%
集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	80,547,234	
総店舗数 (店舗)	7,902	店舗平均月商 (万円)	10,473	
総売場面積 (㎡)	13,134,727	売場1㎡あたり売上高 (万円)	6.3	

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2018年4月20日

日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会
 一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査 2017年度実績（パネル270）速報版

	全店売上高（万円）	構成比	前年度比 （全店）	前年度比 （既存店）
総売上高	1,070,150,387	100.0%	101.3%	99.9%
食品合計	954,512,781	89.2%	101.6%	100.2%
生鮮3部門合計	364,051,750	34.0%	101.3%	99.7%
青果	148,067,713	13.8%	100.4%	99.0%
水産	92,785,899	8.7%	99.4%	97.8%
畜産	123,198,138	11.5%	104.0%	102.2%
惣菜	107,685,816	10.1%	102.5%	100.5%
日配	206,592,534	19.3%	101.6%	100.4%
一般食品	276,182,681	25.8%	101.7%	100.4%
非食品	80,528,731	7.5%	99.0%	98.7%
その他	35,108,875	3.3%	97.2%	97.7%

エリア別集計

エリア	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年度比 （全店）	前年度比 （既存店）
北海道・東北地方	149,250,755	43	101.4%	100.0%
関東地方	394,208,733	73	101.9%	100.7%
中部地方	131,756,263	53	101.2%	99.4%
近畿地方	230,236,137	44	100.6%	99.6%
中国・四国地方	106,503,558	34	100.4%	98.3%
九州・沖縄地方	58,194,941	23	101.2%	100.1%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年度比 （全店）	前年度比 （既存店）
1～3店舗	9,110,691	47	98.2%	97.7%
4～10店舗	44,542,020	68	100.7%	99.1%
11～25店舗	120,582,373	65	100.6%	98.9%
26～50店舗	202,425,760	47	100.5%	99.2%
51店舗以上	693,489,543	43	101.7%	100.4%

※保有店舗数カテゴリーは2015年1月時点での保有店舗数による分類

集計企業数（社）	270	既存店総売上高（万円）	1,042,220,112
----------	-----	-------------	---------------

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2018年3月エリア別気候状況

1. 3月気温の特徴：気温は北・東・西日本でかなり高く、沖縄・奄美で高かった

上旬：東・西日本でかなり高く、北日本と沖縄・奄美で高かった。

中旬：東日本でかなり高く、北・西日本と沖縄・奄美で高かった。

下旬：北・東・西日本でかなり高かった。

2017年3月との比較：月を通じて気温が高く、特に下旬はかなり高い気温だった

	平年との比較 (°C)						今年と前年との差 (°C)		
	2018年3月			2017年3月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	1.6	0.9	2.9	1.5	0.3	0.0	0.1	0.6	2.9
東北地方	1.5	1.9	3.1	0.7	0.3	-0.3	0.8	1.6	3.4
関東甲信地方	2.8	2.6	3.0	0.5	-0.1	-1.5	2.3	2.7	4.5
北陸地方	1.6	1.8	2.4	0.4	0.5	-0.4	1.2	1.3	2.8
東海地方	2.5	2.1	2.5	0.0	-0.1	-1.2	2.5	2.2	3.7
近畿地方	2.4	2.0	2.0	0.2	-0.3	-0.7	2.2	2.3	2.7
中国地方	1.7	1.8	1.6	0.0	-0.2	-0.6	1.7	2.0	2.2
四国地方	2.0	1.7	1.7	0.3	-0.5	-1.2	1.7	2.2	2.9
九州北部	1.6	1.8	1.3	-0.1	-0.3	-0.9	1.7	2.1	2.2
九州南部・奄美地方	2.1	1.8	0.9	-0.9	-0.8	-1.2	3.0	2.6	2.1

平年差

+2°C以上

+1°C以上

-2°C以上

-1°C以上

前年差

+2°C以上

+1°C以上

-2°C以上

-1°C以上

2. 3月日照時間の特徴：日照時間は全国的に多く、東・西日本と沖縄・奄美ではかなり多かった

上旬：北・東日本日本海側で多かった。

中旬：北日本日本海側でかなり少なかった。一方、東日本太平洋側でかなり多く、西日本と沖縄・奄美で多かった。

下旬：全国的にかなり多かった。

2017年3月との比較：下旬は全国的にかなり多くなった

	日照時間 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2018年3月			2017年3月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	44	96	148	88	170	103	-44	-74	45
東北地方	84	121	138	106	117	83	-22	4	55
関東甲信地方	91	114	155	112	116	105	-21	-2	50
北陸地方	108	140	167	111	135	107	-3	5	60
東海地方	81	118	160	107	126	102	-26	-8	58
近畿地方	101	130	181	110	130	103	-9	0	78
中国地方	117	125	179	110	137	104	7	-12	75
四国地方	103	111	168	115	137	84	-12	-26	84
九州北部	89	115	180	117	135	82	-28	-20	98
九州南部・奄美地方	81	124	189	102	106	94	-21	18	95

平年差

平年比150%以上

平年比125%~149%

平年比50%以下

平年比51%~75%

前年差

+50%以上

+25~49%

-50%以下

-25~-49%

3. 3月降水量の特徴：北・東・西日本で多く、北日本と東日本太平洋側ではかなり多かった

上旬：北・東・西日本でかなり多く、沖縄・奄美で多かった。

中旬：北・東日本太平洋側で少なかった。一方、東日本日本海側と西日本で多かった。

下旬：北日本日本海側と沖縄・奄美でかなり少なく、北・西日本太平洋側と東日本で少なかった。

2017年3月との比較：上旬から中旬にかけて全国的にかなり降水量が多かった。

	降水量 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2018年3月			2017年3月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	462	95	6	67	15	94	395	80	-88
東北地方	414	16	94	60	63	97	354	-47	-3
関東甲信地方	449	47	84	43	25	115	406	22	-31
北陸地方	174	108	75	97	43	66	77	65	9
東海地方	417	65	66	44	8	117	373	57	-51
近畿地方	246	109	90	27	14	88	219	95	2
中国地方	221	151	121	41	25	87	180	126	34
四国地方	222	169	95	6	30	92	216	139	3
九州北部	216	157	62	16	52	75	200	105	-13
九州南部・奄美地方	184	78	17	52	97	86	132	-19	-69

平年差

平年比150%以上

平年比125%~149%

平年比50%以下

平年比51%~75%

前年差

+50%以上

+25~49%

-50%以下

-25~-49%

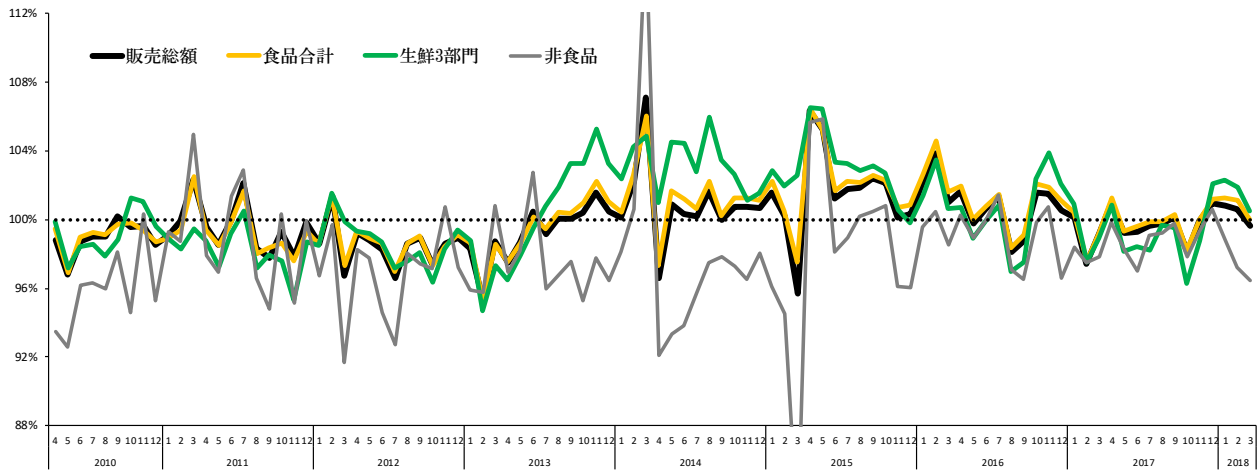
気象庁ホームページ・報道発表資料「3月の気候」参照

平年値は過去30年（1981年~2010年）の平均

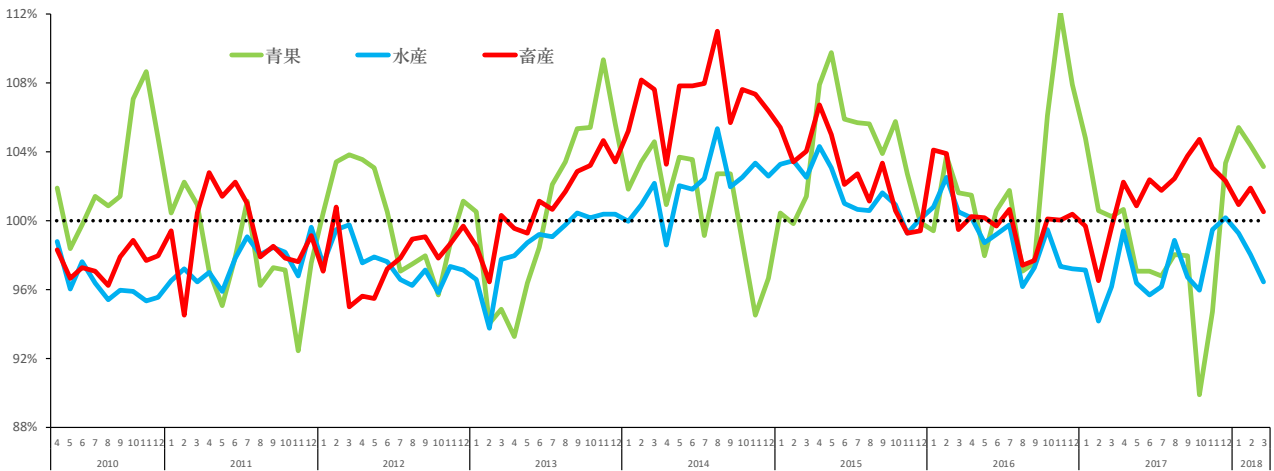
スーパーマーケット統計事務局作成

スーパーマーケット販売統計(パネル270) 既存店前年同月比推移 2010年4月～

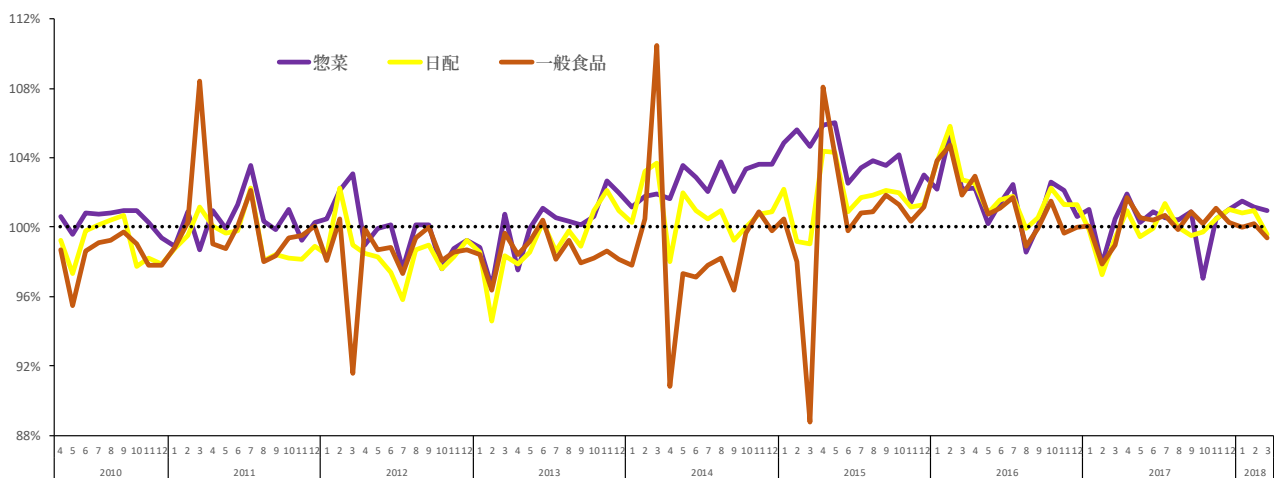
販売総額・食品合計・生鮮3部門・非食品



青果・水産・畜産



惣菜・日配・一般食品



※2010年4月～2018年2月までは確報版による前年同月比、2018年3月は速報版による前年同月比

スーパーマーケット景気動向調査

2018年4月調査結果（3月実績）
（2018年4月20日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会
一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

4月調査（3月実績）結果概況

景気判断DI 現状判断は前月水準、見通し判断は小幅に悪化

3月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DI 現状判断は前月から-0.6の45.3、見通し判断は前月から-1.7の43.7となり、どちらも小幅な悪化となった。

経営動向調査では、売上高DIが-8.6とわずかに前月を下回ったものの、収益DIは-4.8と前月よりわずかに上昇した。青果相場の高騰が一服し、生鮮仕入原価DIが5.7まで低下したことで、客単価DIが3.9まで下押しした。上旬の悪天候や競合により、来客数DIが-15.1と二桁のマイナスとなったことが売上DIを低下させた。

カテゴリ動向調査では、上旬まで相場が高騰した青果DIが7.8と、花見時期の好天や行楽需要の高まりにより惣菜DI、鍋需要は低迷したものの気温の上昇で焼用商材が好調となった畜産DIがわずかなプラスとなった。それ以外のカテゴリDIはマイナスとなっており、特に不漁による品不足や価格高騰の続く水産DIのマイナス幅が大きい。（カテゴリ動向については最終ページに詳細を掲載）

景況感調査は、現状判断DIは小幅な動きにとどまっているものの、見通し判断は小幅な悪化となった。引き続き各移動平均線はわずかなプラスを維持している。（周辺地域景気動向DI 長期傾向参照）

野菜相場高騰が一服し客単価が低下することで売上也伸び悩みをみせた。また、客単価の低迷が長期化しており、早急な対応が必要となっている。他業態との価格競争が厳しさを増すなかで、サービスでの差別化など新たな取り組みが求められている。

景況感調査

現状判断

景気判断DI 当月：45.3 (-0.6) 前月：45.9	消費者購買意欲DI 当月：45.5 (-0.3) 前月：45.8	周辺地域 競合状況DI 当月：42.0 (+0.1) 前月：41.9	店舗周辺地域 景気判断DI 当月：47.0 (-0.1) 前月：47.1
--	---	---	---

見通し判断

景気判断DI 当月：43.7 (-1.7) 前月：45.4	消費者購買意欲DI 当月：44.7 (-1.5) 前月：46.2	周辺地域 競合状況DI 当月：39.9 (-0.4) 前月：40.3	店舗周辺地域 景気判断DI 当月：46.3 (-0.6) 前月：46.9
--	---	---	---

経営動向調査 経営状況

売上高DI 当月：-8.6 (-3.2) 前月：-5.4	客単価DI 当月：3.9 (-6.2) 前月：10.1	来客数DI 当月：-15.1 (-0.3) 前月：-14.8	
収益DI 当月：-4.8 (+0.2) 前月：-5.0	販売価格DI 当月：2.7 (-3.8) 前月：6.5	生鮮品仕入原価DI 当月：5.7 (-9.9) 前月：15.6	食品仕入原価DI 当月：1.9 (-2.3) 前月：4.2

カテゴリ動向

青果DI 当月：7.8 (-3.5) 前月：11.3	水産DI 当月：-17.0 (-5.1) 前月：-11.9	畜産DI 当月：1.0 (-1.6) 前月：2.6	
惣菜DI 当月：1.1 (-0.1) 前月：1.2	日配DI 当月：-7.1 (-5.8) 前月：-1.3	一般食品DI 当月：-10.3 (-4.2) 前月：-6.1	非食品DI 当月：-10.9 (+1.4) 前月：-12.3

○ 内は前月DIとの増減、赤字はマイナス

4月調査（3月実績）結果詳細 I. 経営動向調査（2011年4月～）

1. 売上高DI

3ヵ月連続低下しマイナス圏での推移

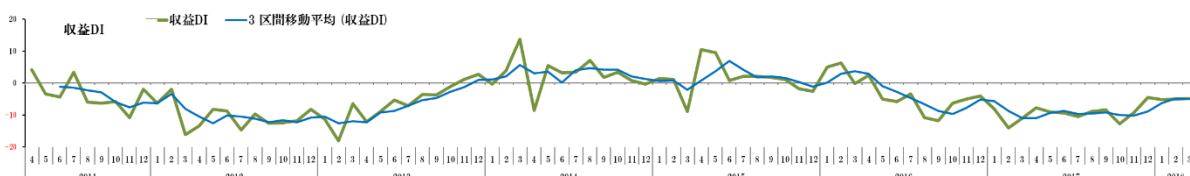
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高（前月）	9.5	31.0	33.5	23.5	2.5	-5.4
売上高（当月）	9.9	37.5	31.3	19.8	1.6	-8.6



2. 収益DI

マイナス圏で横ばいの推移が続く

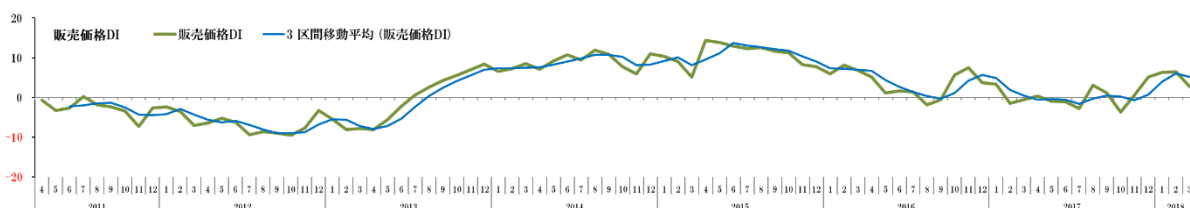
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益（前月）	7.7	30.1	41.3	16.3	4.6	-5.0
収益（当月）	8.6	29.9	36.9	21.4	3.2	-4.8



3. 販売価格DI

やや低下もプラス圏で推移

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格（前月）	0.0	10.5	54.0	34.5	1.0	6.5
販売価格（当月）	0.0	12.5	64.1	23.4	0.0	2.7



4. 客単価DI

やや低下もプラス圏で推移

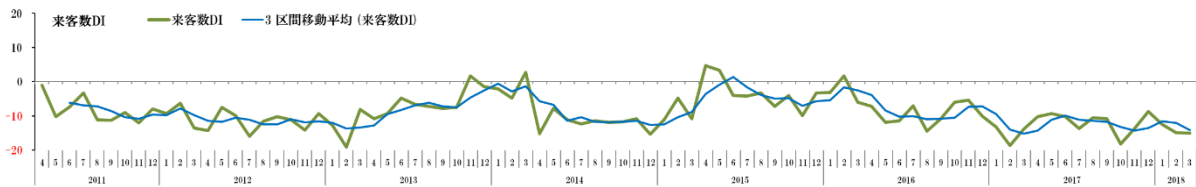
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価（前月）	0.5	10.6	39.7	46.7	2.5	10.1
客単価（当月）	1.6	16.1	47.9	33.9	0.5	3.9



5. 来客数 DI

二桁マイナスが継続し低迷続く

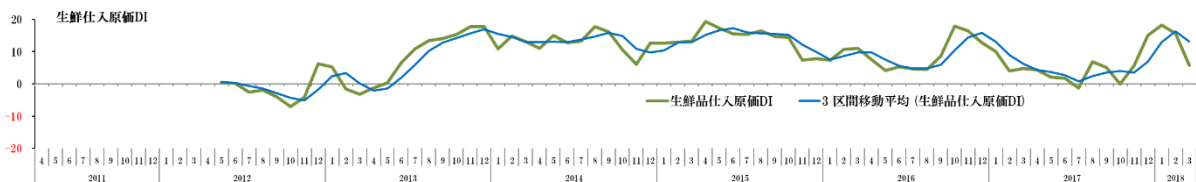
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	11.1	47.2	32.7	8.0	1.0	-14.8
来客数 (当月)	11.0	48.7	30.9	8.4	1.0	-15.1



6. 生鮮仕入原価 DI

二桁プラスからやや低下もプラス圏は維持

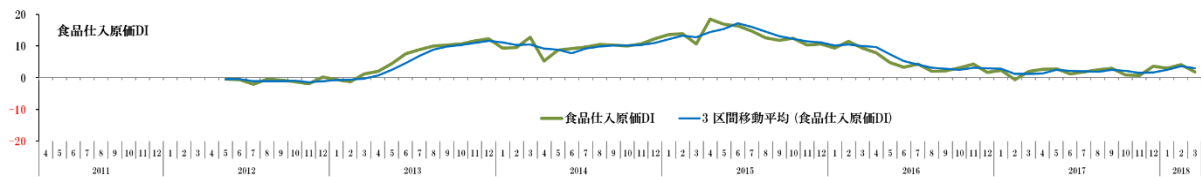
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	0.5	4.6	36.0	49.7	9.1	15.6
生鮮仕入原価 (当月)	2.1	11.2	50.0	35.1	1.6	5.7



7. 食品仕入原価 DI

わずかなプラスを維持し横ばいでの推移

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	2.0	8.1	62.1	26.8	1.0	4.2
食品仕入原価 (当月)	3.7	7.9	66.1	21.7	0.5	1.9

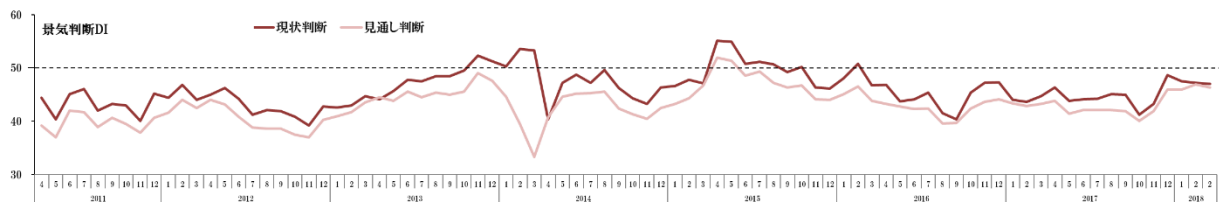


II. 景況感調査 (2011年4月～/周辺地域景気判断のみ 2010年4月～)

1. 中核店舗景気判断 DI

現状判断は前月並みも見通し判断の悪化目立つ

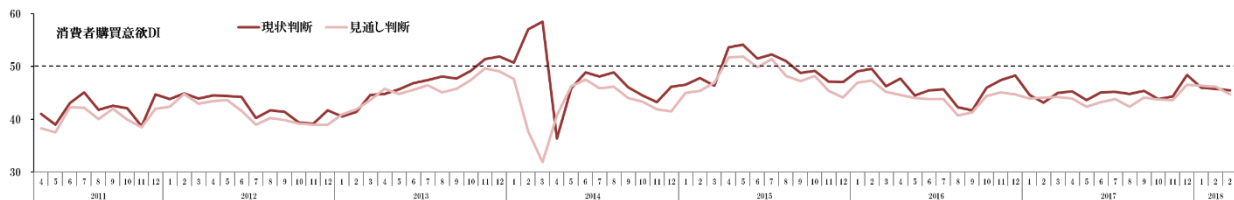
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景気判断 (前月)	2.5	20.3	68.3	8.9	0.0	45.9
【現状】景気判断 (当月)	1.6	23.8	66.3	8.3	0.0	45.3
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景気判断 (前月)	2.5	19.8	71.3	6.4	0.0	45.4
【見通し】景気判断 (当月)	1.5	28.4	63.9	6.2	0.0	43.7



2. 消費者購買意欲 DI

現状判断は前月並みも見通し判断の悪化目立つ

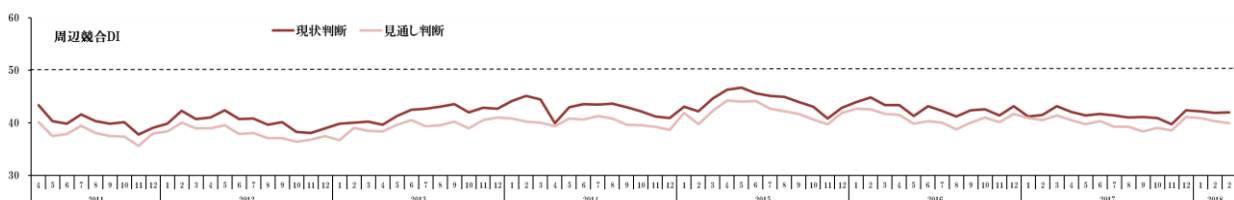
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	1.0	21.3	71.3	6.4	0.0	45.8
【現状】購買意欲 (当月)	0.5	22.2	72.2	5.2	0.0	45.5
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	0.0	19.8	75.7	4.5	0.0	46.2
【見通し】購買意欲 (当月)	0.5	22.2	75.3	2.1	0.0	44.7



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状判断、見通し判断共に低位横ばいでの推移

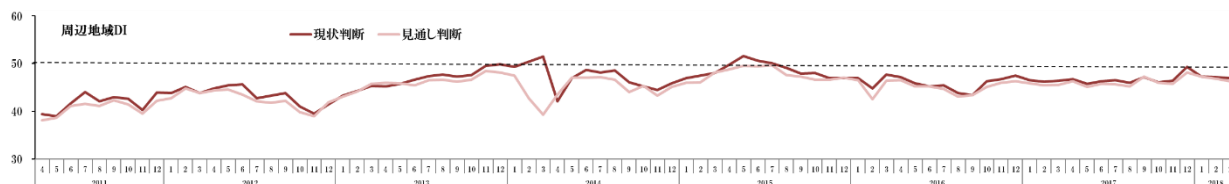
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	4.5	26.4	66.2	3.0	0.0	41.9
【現状】競合状況 (当月)	3.6	27.3	66.5	2.6	0.0	42.0
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	5.0	30.8	62.2	2.0	0.0	40.3
【見通し】競合状況 (当月)	3.6	34.5	60.3	1.5	0.0	39.9



4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

現状判断、見通し判断共にほぼ前月水準で推移

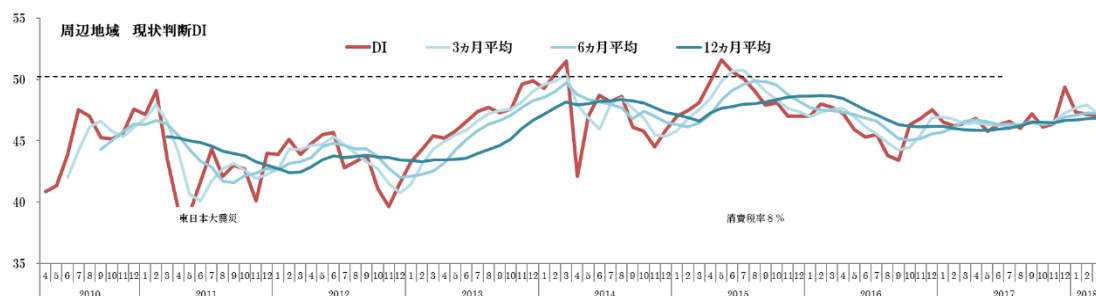
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	0.5	12.4	85.1	2.0	0.0	47.1
【現状】地域景気 (当月)	0.0	14.1	83.8	2.1	0.0	47.0
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	1.0	12.4	84.6	2.0	0.0	46.9
【見通し】地域景気 (当月)	0.0	16.8	81.2	2.1	0.0	46.3



長期傾向 (2010年4月～)

「中核店舗周辺地域景気判断DI」は、2012年11月以降改善は2014年3月まで継続した。その後消費税率引き上げにより大きく悪化した。5月に一旦持ち直し、8月まで横ばい推移を続けた。9月以降弱含んだものの、12月から6ヵ月連続で改善し、2015年5月に調査開始以来の最高水準に達した。

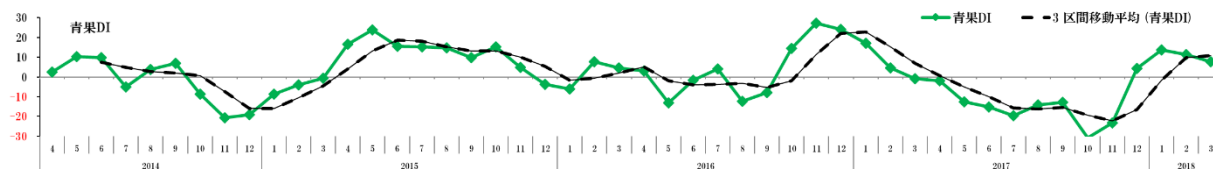
これをピークに6月以降、2016年8月まで悪化傾向が続いた。9月以降は下げ止まりをみせ、小幅に改善傾向が継続し、12月に大幅な改善をみせると移動線は上方転換した。2018年に入り移動線付近で方向感のない動きが続いている。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果DI：7.8（やや好調）

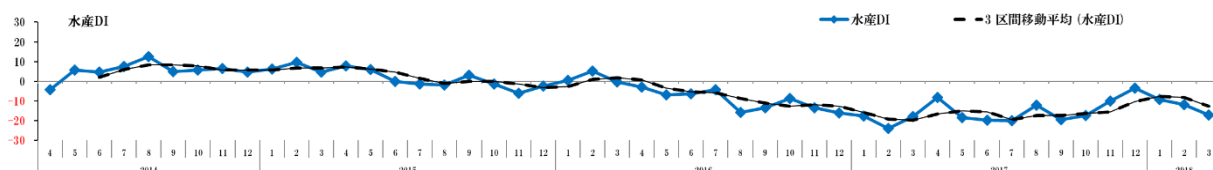
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果 (前月)	4.7	14.7	24.7	42.1	13.7	11.3
青果 (当月)	5.5	14.8	32.8	37.2	9.8	7.8



前半は野菜相場高騰の影響が残り単価が上昇し好調であったが、後半から平年並みの水準まで相場が落ち着くと伸び悩みをみせた。気温の上昇により鍋物商材は苦戦したものの、トマトやきゅうり、ほうれん草などサラダ関連が好調となった。またカット野菜やパック野菜なども引き続き好調となった。国産果物ではいちごは価格が安定しており好調となった店舗が多かったが、柑橘類は動きが悪かった。お花見需要も加わりカットフルーツも好調となった。

2. 水産DI：-17.0（不調）

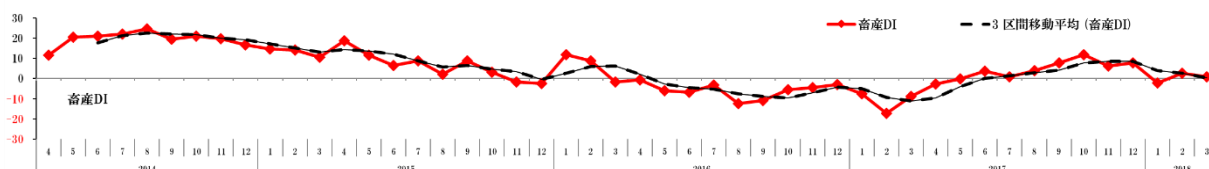
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産 (前月)	13.2	41.3	27.5	15.9	2.1	-11.9
水産 (当月)	18.1	45.1	24.7	11.0	1.1	-17.0



近海魚に加え、まぐろやうなぎ、いかなご、ほたるいか、シラスなどが、軒並み品薄や高値となっており全体的に不調となった。特に前年好調であったうなぎやタコは反動減もみられた。前年より高い気温により鍋商材が総じて不調だが、海藻類の動きがよかった。刺身類は前年との気温差により地域により好不調が分かれている。気温の変化への対応に苦慮した店舗が多くみられた。

3. 畜産DI：1.0（やや好調）

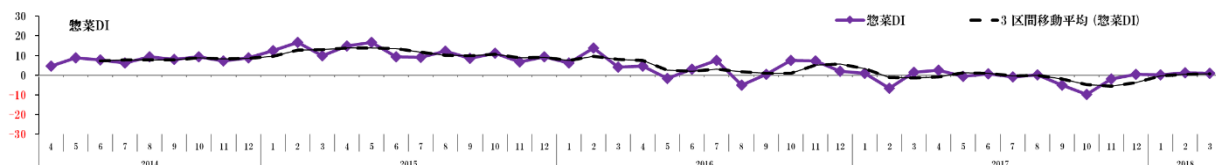
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産 (前月)	4.7	23.0	34.6	32.5	5.2	2.6
畜産 (当月)	6.6	24.9	32.6	29.8	6.1	1.0



牛肉は引き続き高騰しているが、豚肉や鶏肉は相場が低下傾向にあるため、単価は伸び悩んだ。気温の上昇により需要が鍋用から焼き商材にシフトし、牛肉ではステーキや焼肉用、豚肉では生姜焼き用などが好調となったほか、サラダチキンや冷しゃぶ用豚切り落としも好調となった。水産部門からの需要の流入を指摘もみられた。和牛などブランド牛と輸入牛、銘柄豚と輸入豚の動きが共により店舗が多く、メリハリのある消費行動を指摘するコメントがみられた。加工肉は不調とする店舗が多い。

4. 惣菜DI：1.1（やや好調）

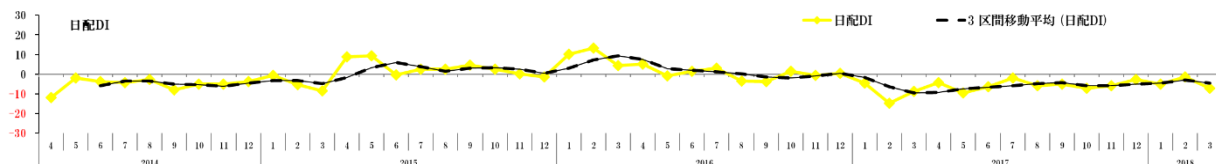
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	4.2	22.8	40.7	28.6	3.7	1.2
惣菜（当月）	4.9	23.5	40.4	24.6	6.6	1.1



上旬は悪天候により伸び悩んだが、その後桜の開花が早まった地域が多く、好天に恵まれたため行楽需要が高まり、米飯類やオードブルやおつまみ、唐揚げや焼鳥などが好調となった。気温上昇により冷惣菜の動きもよかった一方で、揚げ物類は伸び悩んだ。また旬の食材を利用したメニューは好調となった。寿司類はひな祭り時期を除き不調とする店舗が多い。

5. 日配DI：-7.1（やや不調）

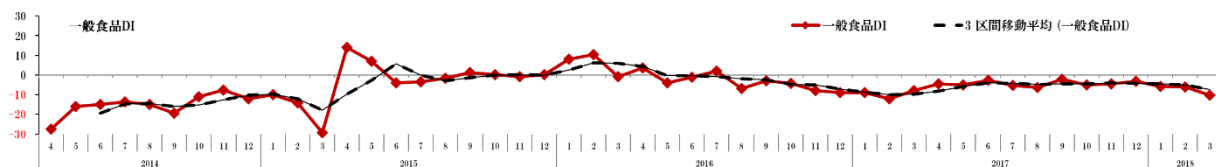
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	4.2	28.0	40.7	22.8	4.2	-1.3
日配（当月）	6.6	33.3	44.3	13.7	2.2	-7.1



野菜高騰の影響で漬物やキムチ、冷凍野菜が好調となった。気温上昇により牛乳をはじめとする乳製品やアイスなどが好調となった一方で、ホットメニューは不調となった。報道を追い風に納豆を好調とする店舗が多い。前年より相場安の卵や、前年特需のあった甘酒は反動減がみられた。春彼岸時期のおはぎ（ぼたもち）は不調となった店舗が多い。

6. 一般食品：-10.3（不調）

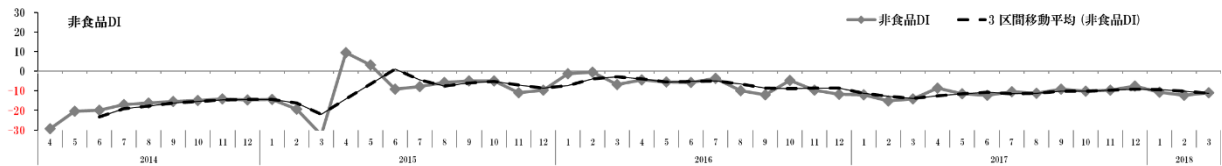
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	6.3	32.8	43.4	13.8	3.7	-6.1
一般食品（当月）	8.2	38.5	41.2	10.4	1.6	-10.3



前半悪天候により伸び悩んだが、好天と気温の上昇により、行楽需要によるふりかけや海苔、飲料や涼味関連商材の動きもよくなった。一方でホット商材は不調となった。米類は単価が上昇しており好調となっている。野菜相場の落ち着きとともにドレッシング類も回復傾向がみられた。酒類は花見需要の大小により好不調の判断がわかれている。値上げのあったコーヒー類は不調とする店舗が多い。乾麺やインスタント麺や菓子などで他業態との価格競争が厳しいとの指摘もみられた。

7. 非食品 DI：-10.9（不調）

回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	13.9	36.4	36.9	10.7	2.1	-12.3
非食品（当月）	13.7	33.7	38.3	10.9	3.4	-10.9



気温の上昇により殺虫剤、花粉対策のマスクなどの季節商材の一部にやや動きがよかった商材がみられるものの、タバコの落ち込みが続いているほか、ホームセンターやドラッグストアなどとの価格競争の影響を大きく受けているとのコメントが多い。

カテゴリー別 DI による好不調判断

かなり好調：～ 20 好調：20 ～ 10 やや好調：10 ～ 0
 やや不調：0 ～ -10 不調：-10 ～ -20 かなり不調：-20～

2018年4月調査（3月実績）キーワード TOP3

1. 天候要因（上旬悪天候、中旬以降好天、気温上昇）
2. 競合店の影響、価格競争、来客数減
3. 行楽需要

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

3月実績速報版 194社
 2月実績確報版 202社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp